

函西さつぽろ

第15号
2019年8月1日

発行数：2000部
編集：竹林進
事務局：
札幌市中央区
南1条西11丁目
MSマテリアルビル4F
浅野法律事務所内



つゝじヶ丘同窓会

第54回札幌支部総会

2019年（令和元年）9月28日（土）
「ネストホテル札幌駅前」に於いて開催



3期6年を振り返って
札幌支部長 浅野 元広（18回生）

同窓生の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私は2014（平成26）年4月から支部長を務めさせていただいておりますが、2020（令和2）年3月をもって、3期6年の任期を終えて退任することとなります。これまで多大なご尽力を頂いた支部役員の皆様、総会・懇親会にご出席頂き、また、会費を納入して頂いた札幌支部同窓生の皆様、ご多忙のところ総会・懇親会にご出席頂いた函館西高の校長先生、教員の方々や本部、東京支部の方々等、多くの皆様に心からお礼申し上げます。

ここで6年間を振り返ってみたいと思います。まず、従来、会計年度（当年4月～翌年3月）と役員任期（前年10月～当年9月）が半年ずれていたのを改め、私の任期を総会で支部長に選任された平成25年10月からではなく半年遅らせて平成26年

4月からとし、その分の、前年の支部長の任期を半年、延長させて頂きました。支部長に選任された直後からわがままを言わせてもらった次第です。こういうこともあって、平成27年度の総会で支部会則を全体的に整理して改正し、役員任期も会計年度と同一にすることを会則上、明確にしました。また、同27年10月に函館市で西高創立110周年記念式典があり出席させて頂きました。こういう大きな行事に参加させてもらって、怠け者の私にもいくらか支部長としての自覚が生まれてきたような……（！?）。

平成28年4月から二期目に入りましたが、同28年度は札幌支部創立50周年の年です。副支部長はじめ支部役員一同のご尽力により記念事業として記念誌の発行と作家森真沙子氏（西高11回生）の記念講演「幕末の箱館はこんなに面白い」を開催しました。また、

平成29年度は、会計支出原則を改正しました。それまで自費だった同窓会本部、東京支部等の総会に出席した場合の懇親会費、旅費、宿泊費を1名分に限定して札幌支部から支出できるようにしたものです。また、同29年12月5日に本部の中山会長のお骨折りで、西高と稜北高の統合問題の担当者である参事（北海道教育庁「新しい高校づくり推進室」と面会し、統合高の名称として西高名を存続させたいという同窓会の強い思いを中山会長共々伝えてきました。西高14回生の川尻道議がこの場を設定してくれたものです。

記念誌の題字「つゝじヶ丘さつぽろ」を西高書道部の若山君（2016ひろしま総文文科大臣賞受賞）に揮毫してもらい、さらに、西高放送部にVTR「西高校の1年間」を制作してもらいました。いずれも札幌支部の貴重な財産になりました。また、西高と稜北高とが平成31年4月から統合されるのが明らかになり、同窓会としてこれにどう対処するかということが問題になりました。

平成29年度は、会計支出原則を改正しました。それまで自費だった同窓会本部、東京支部等の総会に出席した場合の懇親会費、旅費、宿泊費を1名分に限定して札幌支部から支出できるようにしたものです。また、同29年12月5日に本部の中山会長のお骨折りで、西高と稜北高の統合問題の担当者である参事（北海道教育庁「新しい高校づくり推進室」と面会し、統合高の名称として西高名を存続させたいという同窓会の強い思いを中山会長共々伝えてきました。西高14回生の川尻道議がこの場を設定してくれたものです。

こうして三期目に入る平成30年度の総会をむかえました。表幹事から統合高の名称は函館西高になる旨の嬉しい知らせがもたらされたのです。他方、平成28年度、同29年度の2年間、副支部長を務めて頂いた對馬良司さん（16回生）が、同30年12月、御病気で亡くなられるという悲しい知らせもありました。對馬さんは、50周年記念誌の編集委員会委員長として記念誌の発行に多大なご尽力をされた方です。心からお悔やみ申し上げます。

こうして振り返ってみると、毎年のルーティンとして総会・懇親会を開催するだけではなく、それなりに何かあるものだなと改めて思います。2019（令和1）年度の総会では、次年度からの新たな支部長等を選ぶことになりました。札幌支部は、会費納入者数は横ばいで総会・懇親会への出席者数はむしろ減少傾向にあります。全体的に高齢化が進んでいる等、相変わらずの問題があります。また、今後、稜北高同窓会や新たな函館西高の同窓会とつゝじヶ丘同窓会との関係がどうなるのかという課題があるでしょう。新たな支部長の下で諸課題に取り組む、札幌支部が発展することを願ってやみません。

18回生（昭和43年3月卒業）同期会開催！！

池田 隆（18回生）

平成30年10月7日（日）
「函館国際ホテル」
において18回生の同
期会が開催されまし
た。



同期会はこれまで
概ね5年サイクルで開催され
ており、東京、大阪、広島な
ど全国各地から集まり、今回
は109名の参加となりました。

我々世代は「団塊の世代」
と呼ばれ、小中高校のどの時
代でも人数が一番多かったと
思います。私が入学した昭和
40年は高校受験の範囲が限定
された「小学区制」の最後の
年でした。
西高へ受験できたのは、概
ね函館市内は若松町・新川町
付近から函館山よりの西部地
区と郡部はJR上磯線沿線の
中学校でした。

西高18回生は、普通科9ク
ラス、家庭科1クラスの10ク
ラスでありマンモス学年でし
た。（卒業生526名）
私は3年8組でしたが、過
去数回の同期会では出席者が
一番多く自慢しておりますが
、今回は、残念ながら3年



7組（17名）にトップの座を
け渡してしまいました。
午後6時から会長挨拶・祝
杯・祝宴・クラス紹介・写真
撮影・校歌・応援歌斉唱と続
き、西高3年間の懐かしい話
や卒業後のそれぞれの人生話
に花が咲き楽しい時間となり
ました。

9時過ぎからは隣りのニチ
ロビル1Fでの合同2次会と
続き、我クラスは11時過ぎか
ら五稜郭へ繰り出しての3次
会となり、そこでも飲んで歌っ
て大いに盛り上がった同期会
となりました。70歳を迎える
身体のどこにこんなパワーが
宿っているのか不思議な一日
でした。

今回の同期会を企画してい
ただいた幹事の皆様には大変
感謝しております。次回も楽
しみにしています！？。

新しい函館西高校
校章、校歌、制服決定！

【校章】



校章作成プ
ロジェクトと
して、西高、
稜北高の美術
部、イラスト
部の生徒7名

のデザイン案を函館デザイン
協議会所属のデザイナーと対
話しながら練り上げ、最終的
には両校の在校生による投票
によってデザインを決定。
「探求」の象徴となる校章。

中央の「W」は西のWest
の頭文字。背景のダイヤは光
り輝く未来を表現している。

【校歌】

歌詞は、現在、過去、未来
をイメージして西高周辺の景
色、空気感、そして生徒たち
の日々の思いや未来への希望
が盛り込まれている。

【制服】

新しさと伝統を感じさせる
セーラー服と詰め襟のデザイ
ンである。2本の白線は、2
校統合の象徴である。スカ
ートのラインは函館の黄色い消
火栓をイメージした和の織り
になっており、函館の街が持
つ和洋折衷をイメージしてい
る。

（西高WEBページより）



北海道函館西高等学校 校歌
監修 国立音楽大学教授 津田正之
作詞 校歌作成プロジェクト（函館西・函館稜北高校生徒）
作曲 紺野鷹生（国立音楽大学）

- 1 たくさんの友 ここに集まり 響き渡る 教会の鐘
この坂から 冒険を始めよう 大切な大切な毎日を 忘れないで
一歩ずつ 登っていこう 思い出ができるその時に 思い出ができるその時に
ともに広くともに広く 海を見よう
- 2 五稜の北の 光差し込み 照らしゆく 臥牛の山
この坂から 冒険を始めよう 大切な大切な思い出を 刻み込んで
雨が降り 虹が架かる 生きる翠を鮮やかに 生きる翠を鮮やかに
ともに広くともに広く 海を見よう
- 3 双つの線 結びはじまる 弧を描く 巴の港
この坂から 冒険を始めよう 大切な大切な年月を 胸に抱いて
風に乗る 語り合おう 瞳は深くまっすぐに 瞳は深くまっすぐに
ともに広くともに広く 海を見よう

【編集後記】

西高は明治38年（1905年）「北海道庁立函館高等女学校」開校以来、創立114年になり、今年新しく第4代目（高女・女子高・西高）としてスタートすることとなった。
今年は新1年生が3クラスから6クラスとなり、生徒数が増えた。このことが生徒の学校生活にプラス効果となるよう期待したい。
（竹林進 17回生）

『脳梗塞を体験!!』

池田 隆 (18回生)



早いもので今年9月には70歳になります。20歳前後の頃には70歳位の人を見ると随分な年寄(老人)だなと感じて見ていましたが、今の自分の歳位置を考えると、そんなに年寄りでは無いと自分では思っております。

私は中学・高校の頃から体育会系であったため、柔軟・屈伸・腹筋・腕立等が続けていました。(回数はその時々で変更)現在の体形は高校生の時と余り変わりなく、体重もほぼ一緒です。

ただし、60歳頃から血圧が、64歳頃から血糖値が高くなり、定期的に病院通いを行い「薬」を飲んでおり、やはり現実的には年寄りの道を歩んでいたようです。

【発症】

脳梗塞の発症は、昨年3月12日3時頃のことでした。トイレから戻って布団に寝ようとした時(痛みや自覚症状は全く無し)に布団の上に「ドタ！」と倒れたようで、妻がビックリして飛び起き、

声を掛けて抱き起こそうとしたようですが無理でした。私は声も出さず身体を動かすことも出来ない状態でした。

これからは何となくですが、私の記憶に残っていた出来事です。「妻が119番に連絡して救急車を呼んだ」「救急隊員の声が聞こえた」「ピーポ・ピーポ救急車に乗って走っている」「救急車が止まって大きな声が聞こえた」までが私の記憶です。

私が気が付いたのは、大きな部屋(HCU病棟)のベツトの上でした。医師・看護師・妻が声を掛けてくれました。「脳梗塞で手術をしましたが成功です。大丈夫ですよ!」自分では家で倒れてから、「痛い・苦しい」という感覚は全く無かったのですが、点滴や心電図等の管や線に繋がれており、色々状況を聞かされ、大変なことが起こっていたと感じた次第です。

病名 左脳梗塞 左中大脳動脈閉鎖 心原性塞栓

【検査・治療】

病院・医師から提供された資料により概略を紹介します。3時54分 救急車は自宅近くの「中村記念病院」(南1条西14丁目)到着。

4時22分 MRI(磁気共鳴画像)撮影・脳血管造影検査を実施。(脳血管造影とは、脳を循環、栄養する動脈にカテーテルと呼ばれる細い管を入れ造影剤を注入して脳の血管を撮影する方法。大腿部の動脈から腕部の動脈を穿刺してカテーテルを挿入する。

この検査で脳の血管が細くなった閉塞している部位がないか、脳出血の原因となる動脈瘤や血管の奇形がないか、腫瘍を栄養する血管がないかな等を調べます。

検査結果は、私の状態は脳主幹動脈閉塞による重度の脳梗塞であり、現状のままでは死亡および植物状態を含む重大な後遺障害を遺し得ることでした。

対策として脳血栓回収機器などによる頭蓋内血管閉塞に対する再開通療法が脳梗塞治療に適していると判断されました。

5時05分 発症時間が不明だったため、t-PA(血栓を4時間半以内に薬で溶かす血栓溶解療法)は見送り、カテーテルによる血栓回収を実施。ステントレトリバーによる血栓回収術にて何とか再開通を得ました。(5時20分)

ドクターからは左中大脳動脈の枝分かれする部分の付根付近に血栓が詰まっており、命にかかわるような危ない病状でしたと術後に言われました。

【経過】

術後は順調で当日は右脚付根を固定していたため、動くことが出来ませんでした。翌朝からはトイレに立つことも可能となりました。4・5日は単語が出てこない日がありました。幸いにも大きな後遺症は特に無く済みました。

HCU病棟はベツト数が14床で急性期や手術後の方が入院されており、面会時間・人数の制限がありました。同室内は常に電気がついており、心電図などの医療機器が設置され機械音が絶えず鳴っている状態で、回復が早かった私は同室での10日間は贅沢にも睡眠不足となりました。

【退院】

私は幸いにも優秀なドクター

の治療により好きなゴルフを出来る状態で退院できました。感謝・感謝です!

退院にあたりドクターから再発防止のために「禁煙」を勧められ、50年間吸い続けていたタバコを止めることにしました。現在、丁度一年経過しましたが、順調に禁煙は続いております。

自宅は南1条通りに面しており、札幌医科大学等の医療施設が付近にあるため、今日も救急車のサイレン音が聞こえます。皆様も体調の維持・管理に気を付けてお過ごし下さい。

(平成31年3月24日記)



【原稿募集】

皆様からの投稿をお待ちしております。

高校同期会の情報や、当時の古い写真などがありましたらコメントなどを付けて事務局までお寄せください。

【札幌支部事務局】

函館クリスマスファンタジー

『一夜限りのテーマパークWestランド』



山田 かおり (46回生)

つゝじヶ丘同窓会札幌支部のみなさま、こんにちは。

私は46回生(函館在住)の山田かおりと申します。

昨年12月20日に当時2年生の西高生有志と共に、函館クリスマスファンタジーのステージで『一夜限りのテーマパークWestランド』を開催しましたので、その様子をお伝えします。

行うきっかけとなったのは、西高のキャリア教育の一環で、社会人と生徒が函館の活性化について対話をするワールドカフェから生まれました。5年目の活動で私も以前から参加させて頂きまして、毎回回遊園地・水族館が欲しい、ボランティアを行いたいなどの声が多くありました。今回のチームは函館の現況話から、函館は観光客目線のものが多いが、市民が楽しめるものがない!それならどうしたら良いか?と話していた所、西高最後の年に地元の人が楽しめるイベントを自分達で開催したい!と話に花が咲きました。

私自身もいつか実践につなげてあげたいという思いが以前からあった事から、卒業生として応援する事になりました。

その時に参加された社会人の方との縁もあり、クリスマスファンタジーのステージへ参加出来る事になりました。感謝です。

このイベントは学校行事とは別で有志のボランティアの活動だった為、部活動を終えてから準備を行い、大勢で行うフラッシュモブは昼休みに体育館へ集まり、練習を自主的に行っていました。参加メンバー集めや練習場所の交渉など、生徒自ら行ってました。

そのような中、実は学校を卒業してから卒業生と関わる機会が殆どなく、中山会長へ突然ご連絡した所、同窓会としても応援して頂けると快く受け止めて頂きました。とても心強かったです。それから輪が広がっていき、初対面の方も現役生が頑張る話を聴けて嬉しいと多くの方に

協力して頂きました。始めは後輩達を応援しているつもりが、私も含めて諸先輩方々に応援して頂いている事に気づきました。

年数は経過していても西高の環境で学んだ事が自然と受け継がれているように感じました。

今回、コアメンバーの生徒達と共に動いていた中で共通していた事は、個性豊かで責任感が高い事。そして仲間への敬意を持ちありがとうの言葉を多く交わしていた事でした。

イベント前日まで、クッキーやパンの製作・衣裳の作製・フラッシュモブ、マジックの練習...。そして、当日に流す



映像にその様子を含める為、直前まで映像の編集作業をしてくれました。その時は各自責任もって声を掛け合っていました。後から前日は中々眠れなかったとも聞き、参加する喜びとプレッシャーにも負けずに頑張っていたなと感じています。

一夜限りのテーマパーク『Westランド』が開催された日は、海風の寒さもありましたが、最後となる制服姿で行いたいと、カーディガンに学ラン姿でキャストとしておもてなしていました。

ステージ上では寒さを感じさせる素振りもなく、ずっと笑顔でパフォーマンスを行い、最後に吹奏楽の演奏と共に校歌を歌っていた姿は、多くの方に来ていた多くの方に感動を届けていました。

その笑顔を見てこれまで携わってきた事に感謝と共に、一つのイベントを現役生と卒業生が協力して創りあげる事の出来る西高を卒業して良かったと改めて思いました。

まだまだ生徒達の事、そして協力して頂いた卒業生や関係者の事をお伝えしたい事は沢山あります。

意欲ある現役生、学校の柔

軟な協力、卒業生の協力、西高生の想いを受け止めて協賛して頂いた方、そして会社の協力...。一つ一つの縁と想いが繋がると思っています。皆様に感謝致します。ありがとうございました。

山田 かおり

